

## 大学コンソーシアム熊本 第1期中期計画の進捗状況、評価

中長期計画に対する自己評価	
全体評価	<p>S：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。</p> <p>A：当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。</p> <p>B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。</p> <p>C：当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。</p> <p>D：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。</p>
B	
評価理由	<p>中期計画として作成した4つの目標に対し設定した15の取組みについて、それぞれ令和5年度の活動指標に照らして実績を評価した結果、S評価2、A評価4、B評価8、C評価0、評価せず1であった。なお、年度毎の活動指標がない事業については、S評価とした。目標ごとに設定した取組の総合的な評価は①「県内進学増加と県外からの進学者の導入」についてはB評価、②「産学官連携の機会の増加」についてはB評価、③「国際交流の活性化」についてはB評価、④「地域における高等教育の環境を向上させるための包括的な取り組み」についてはB評価とした。4つの評価結果をそれぞれの目的と照らし総合的に判断した結果、総合評価をBとした。</p> <p>また、令和5年度が中期計画の最終年度であることから、9つの達成目標に対する達成度評価はA評価3、B評価3、C評価3であり、5か年間の達成度に関する総合評価についてもB評価とする。このことから、目的・目標に関する評価、5年間の達成度評価ともB評価であり、中期計画の全体評価もB評価とする。</p>
<b>評価に関する備考（考慮すべき事項）</b>	
<p>令和5年度は可能な限り対面で実施し、その他オンラインを活用した取組も含めて計画をすべて実施した。その他、活動指標にない事業も2事業を行う他、行政・産業界のイベントの周知等指標だけにとらわれない活動も展開している。</p> <p>中期計画を作成した際の状況と比較して新型コロナウイルス感染症の流行により大きく環境が変わり、それぞれの活動指標に対する実績をそのまま評価することが難しいと思われるものもあったが、中期計画の最終年度でもあり、達成目標にも注視したところである。</p> <p>中期計画の最終年度は、達成目標を考慮しながらの活動となったが、コロナ禍以前の水準まで戻っていないものが多く、それぞれの取組みについては第2期も引き続き事業を進めていく必要がある。</p>	